

「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」報告(H21.7)において報告書のコンセプト全体を体現する「扇の要」と位置付けられた「民族共生の象徴となる空間」に関する基本的な構想を取りまとめ(空間の意義、具体的機能、候補地等)

象徴空間の基本的考え方

【意義】

- ・多様で豊かな文化、異なる民族との共生の尊重(国民各層への理解促進、アイヌ文化の確実な継承、新たなアイヌ文化の創造・発展)

【基本コンセプト】

- ・アイヌ文化復興等の拠点(ナショナルセンター)として、国の主体性の下、中核的な文化施設を核とし、併せて、広大な自然の中で、アイヌ文化の実践・伝承活動や、体験・交流活動が展開できる自然体験型の野外ミュージアムを中心とした空間を整備

【役割】

今後のアイヌ政策推進の中心的拠点

- ① 「広義のアイヌ文化の復興」
- ② 「アイヌの歴史、文化等に関する国民理解の促進」
- ③ 「将来の発展に向けた連携・協働」

【候補地】

- ・北海道白老町を選定(中心的区域はポロト湖畔周辺が適地)

具体的機能等について

【展示等機能】

- ・先住民族としてのアイヌの歴史、文化等の総合的・一体的な展示、実践的な調査研究、伝承者等の人材育成
- ・国立を含め、国が主体的に文化施設(博物館等)を整備

【体験・交流機能】

- ・文化伝承・体験学習活動(伝統的家屋、山・海・川の活用)
- ・国内外の文化との交流(海外の先住民族文化等との交流)

【文化施設周辺の公園機能】

- ・豊かな自然を活用したレクリエーション活動や憩いの場等の提供(国内外の多様な利用者へのサービス提供)

【アイヌの精神文化を尊重する機能】

- ・広場・モニュメント(アイヌの精神文化・民族共生の理解促進)
- ・大学等にあるアイヌ人骨のうち、遺族等への返還の目途が立たないものは、国が主導して、象徴空間に集約し、尊厳ある慰霊に配慮

※ アイヌの歴史解明のための研究への寄与を可能、成果を還元

今後の検討課題等

【今後の検討体制】

- ・関係府省からなる検討体制、現地における実務的な検討体制の構築
- ・アイヌ政策推進会議の作業部会による具体化に向けたフォローアップ、専門的検討の継続

【空間の整備・運営】

- ・地方公共団体等との役割分担、既存施設の有効活用、アイヌの主体的な参画の在り方の検討等